

目録

三十一頁
四四一頁

大正拾壹年度事業報告

鹿兒島縣水產試驗場

大正十一年度鹿兒島縣水產試驗場事業報告

目次

漁撈部

試驗船照洋丸ノ建造

建造經過、構造設備概要、建造費、船体傾斜試驗、機關連續運轉、造船工事契約、機關製作工事契約、無線電信工事契約、照洋丸工事仕様書、機關仕様書、無線電信機仕様書

鯉餌料鱈漁業試驗

趣旨、試驗方法、經過成績、漁業表

鮪延繩漁業試驗

趣旨、經過成績、漁業表

小型發動船漁業試驗

鯖釣漁業試驗(趣旨、經過成績、漁業表)

旗魚延繩漁業試驗(全)

瀬魚延繩漁業試驗(全)

傳書鳩利用試驗

趣旨、飼育訓練、漁船使用成績

電氣集魚燈試驗

趣旨、方法經過、試驗成績、試驗資料

製造部..... 八九

鯉節製造試驗..... 八九

趣旨、高低溫焙乾比較試驗、鯉節共同試驗

布糊製造試驗..... 九〇

原藻漂白、アルカリ作用、過軟古藻處理、炭酸加里ノ作用

鹿尾菜製造試驗..... 九〇

趣旨、試驗經過、成績

鱈利用試驗..... 九六

趣旨、末廣鱈、栗濱鱈、鱈固形調味料

養殖部..... 一〇三

海藻養殖試驗..... 一〇三

海藻蕃殖、試驗經過成績

海苔養殖試驗..... 一〇五

調查部..... 一〇七

海洋調查..... 一〇七

開聞岬屋久島間橫斷觀測、鹿兒島灣內定點觀測

講習指導..... 一〇九

布糊製造指導、鯉節製造講習、節製造場改築指導、發動機關士養成講習、

漁船々長講習、發動機々關士試驗

大正十三年度鹿兒島縣水產試驗場事業報告

漁撈部

試驗船照洋丸ノ建造

本縣沖合漁業ニ發動機船ヲ應用シ操業ノ利便ヲ示シ其堅牢ナル船体ニ依ル遭難ノ慘禍ヲ防遏スルノ目的ヲ以テ明治四十三年七月木製西洋型試驗船竹島丸（總噸數十九、五機關馬力三十）ヲ建造シ爾來所期ノ目的ニ努メ幾クモナラスシテ鯉鮪漁船ハ機力化シ漁法ノ改善操業區域ノ擴大等駁々トシテ進ミ今ヤ竹島丸ハ民間漁船ノ發達ニ比シ規模小ニシテ且船体漸ク老朽セルヲ以テ更ニ時代ニ適應スル試驗船建造ノ必要ニ迫リ大正十一年度ヨリ三ケ年繼續支出ノ豫算ヲ得事業施行ノ必要上本年度内ニ於テ建造ヲ了セリ。

建造經過

本船ハ「ケッチ」型補助機關付帆船ニテ鯉鮪漁業海洋調査等遠海ノ航行ニ堪フルヲ目的トシ設計ハ農商務省水産局ノ指導ヲ受ケ施行セルモノニシテ大正十一年七月船体ハ三重縣鳥羽町株式會社神戸製鋼所鳥羽造船工場ト

機關ハ東京翹町區有樂町株式會社新瀉鐵工所ト契約シ無線電信機ハ同年十月東京府澁谷町株式會社安中電機製作所ト契約ヲ締結シテ工事ヲ進メ機關、電信機ハ鳥羽造船工場内ニテ据付ヲ爲シ造船工事ハ本場技手梅本儀助監督シ造船規程、漁船検査規程、遠洋漁船検査規程、私設無線電信規程ニ依リ其筋ノ検査ヲ終タリ。

大正拾壹年九月

現圖成ル 同上検査（農商務省）

同

十月三日

キール据付

試驗船照洋丸ノ建造

大正拾壹年十一月四日 水槽油槽検査 (遞信省)

同 同 十四日 進水艤装工事ニ移ル

同 同 十二月一日 測度検査 (遞信省)

同 同 十二日 公試運轉 (同)

同 同 十三日 機關連續運轉 (農商務省) 船体傾斜試験 (同) 無線電信機検査 (遞信省)

同 同 十四日 滿載狀態ニ於ケル傾斜試験及航走検査 (農商務省) 無線電信通信距離検査 (遞信省)

同 同 十五日 竣工受取

同 十二年一月一日 鹿兒島港へ回航着

本船ノ命名ハ中川本縣知事ニヨリ照洋丸ト命名セラレタリ。

構造設備摘要

本船ノ重要項目左ノ如シ。

船種 帆 船 國籍證書番號 二七〇四五 信號符字 SBCW

帆装 「ケツチ」

船質 鋼

船体重要寸法

長 六十七呎 幅 十五呎 深 七呎三吋

長幅割合 四、四七 長深割合 九、二四 幅深割合 二、〇七

第一數 二二、二五

第二數 一四九〇、七五

總噸數 五〇、〇九噸（上甲板下噸數四六、〇八）

登簿噸數 一一、六九

機關、馬力 ライセル機關 七十五馬力

推巡器 螺旋推進器 一個

速 力 八浬四分ノ三

無線電信機 五分ノ三キロ高周波瞬滅火花式通信距離八十浬

船体ノ構造材料ハ船首材キールハ鍊鋼船尾材ハ鑄鋼外板ハ米國製軟鋼ニテ外板ノ厚ハ二分乃至三分ニテ絞釘ハ「ニューマチックハンマー」ニ據リ甲板木材ハ米松厚三吋「マスト」檣材前檣五拾尺後檣四拾五尺ニテ之ニケツチ型帆裝ヲ爲セリ總テノ工作ハ堅牢ト利便ヲ主トシ裝飾ト美觀ハ第二位ニ置ケリ。

船内配置ハ甲板下ニテ前部ニ錨鎖庫次ニ船員室アリ十二ノ「ベッド」ヲ備ヘ次ニ魚槽ニ區劃アリ之ハ活間トモ爲シ得ル様底部ニ換水孔ヲ有シ其ノ左右側ノ前部ハ漁具庫後部ハ氷庫トナリ四噸ノ氷ヲ貯ヘ得ヘク其ノ周圍ハ防熱裝置ヲ施セリ次ニ機關室アリ左右側ヲ重油槽トシ五噸ノ容積アリ其ノ後部ヲ船員室トシ四ノ「ベッド」ヲ有シ最後部ヲ物入トセリ甲板上ハ機關室上部ニテ前部ハ舵取室次ニ無線電信室アリ後部船員室ノ上部ニ賄室ランプ室アリ飲料水槽ハ舵取室ノ下及賄室ノ後ニ据付二噸餘ヲ貯ヘラル。

船ノ吃水ハ前部三呎四吋二分ノ一船尾六呎拾壹吋二分ノ一ナリ。

本船据付ノ發動機關ハ株式會社新瀉鐵工所製ノモノニシテ重要ナル事項次ノ如シ。

一、馬 力 純七十五 一、氣筒ノ徑 九吋

一、氣筒ノ數 三 個 一、衝 程 十二吋

一、回轉數 一分間三百五拾

一、全 長 十三呎六吋

一、幅 四呎五吋

一、高 中心線上五呎

一、重 量 五噸七

外ニ始動用補助機關トシ五馬力ノ發動機ヲ附設セリ機關ノ檢査ハ据付前遞信省及農商務省ヨリ機關分解檢査水壓檢査ヲ受ケ尙農商務省ヨリ全荷重一割過荷重返轉全荷重等陸上運轉檢査ヲ受ケタルモノニシテ船内据付後執行シタル其試運轉ノ成績ハ別項記スル如シ。

本船据付ノ無線電信ハ安中電機製作所ノ製作ニカ、リ通信機ハ五分ノ三キロ高周波瞬滅火花式ニテ左ノ如ク裝置セリ。機關室内ノ始動用五馬力ノ發動機ヲ兼用シ之ヲ「ニキロ」ノ「ダイナモ」ニ直結シ百「ボルト」ノ發電ヲナシ同機關室内ニアル電動機ニテ二千五百ホルトニ變壓シテ電信室内ニ送り通信機ニテ三百米又ハ六百米ノ波長トシ前後橋間ニ張レル空中線ニ送りテ放電シ受信ハ同空中線ヲ經テ電信室内ノ受信機器ニテ受信ス。

本船無線電信ノ設置ハ大正十一年十一月十日遞信大臣ヨリ私設無線電信トシ許可ヲ受ケ据付後同省ノ檢査ニテ通信距離八拾哩ノ許可ヲ受ケタルモ晝間百哩夜間三百哩ノ通信能力ヲ有シ受信ハヨリ一層大ナル能力ヲ有セリ。

建造費 總額五萬六千八百五十四圓ニシテ其内譯左ノ如シ。

船体及機裝費 二萬四千三百六十九圓七十錢

機關 費 二萬四千七百圓

無線電信機設備費 五千七百十圓

豫備品其他 二千七十五圓

船体傾斜試驗

本船竣工後農商務省水產局ニ於テ施行セル本船傾斜試驗成績左ノ如シ（主任野島水產局囑托擔當）

空荷吃水状態ニ於ケル傾斜試験成績

大正十一年十二月十四日午後一時半ヨリ二時半迄ノ間ニ於テ三重縣鳥羽町鳥羽造船所内船渠ニ於テ鹿兒島縣漁業指導船照洋丸ノ傾斜試験ヲ行フ。

當日ノ天候 曇

風 位 西

風 力 微風

海水ノ比重 一、〇一五

海水ノ溫度 華氏 五三、〇度

水流ノ状態 ナシ

本船ノ重要項目左ノ如シ。

- 一、船種 帆船
- 二、甲板ノ數 一層
- 三、船質 鋼
- 四、帆裝 「ケツチ」
- 五、長 六十七呎〇吋
- 六、幅 十五呎〇吋
- 七、深 七呎三吋

試験船照洋丸ノ建造

八、總噸數

五〇、〇九噸

九、上甲板下噸數

四六、〇八噸

十、登簿噸數

一一、六九噸

十一、機關ノ種類及數

新瀉鐵工所製ディーゼル機關七十五馬力一台

十二、推進器ノ種類及數

螺旋推進器 壹個

十三、造船所

神戸製鋼所鳥羽造船工場

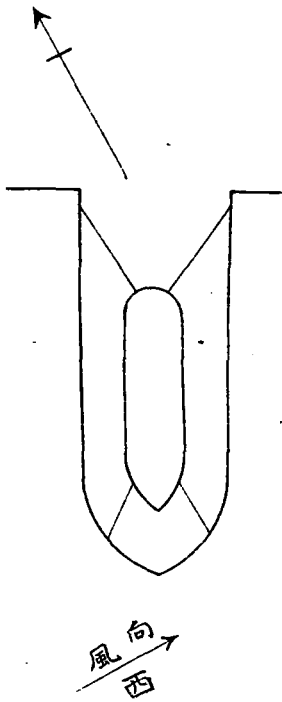
十四、進水年月日

大正十一年十一月十四日

十五、所有者

鹿兒島縣

一、繫船方法 左圖ノ如ク船首尾ニ於テ各二本ノ繫船索ヲ用ヒタルモ試驗中弛緩シテ船ノ運動ヲ妨ケズ又當日滿潮ニシテ且ツ船渠中ニアリシヲ以テ水流殆ンド無ク何等差支ナカリシト認ム。



二、試驗當時ニ於ケル本船ノ狀態

傾斜試驗執行ノ際ニ於ケル本船ノ狀態左ノ如シ。

一、船體機關共全部完成ス。

- 二、機裝品屬具等ハ特ニ明記セザルモノハ總テ完成ノ上適當ノ位置ニアルモノトス。
- 三、海水ハ全部排除セリ。
- 四、機關室内重油小出シ「タンク」ニ一石アリ(〇、一六七噸)。
- 五、機關室内輕油三罐床上ニアリ(〇、〇五噸)。
- 六、水槽ハ全部空ナリ。
- 七、壓艙物ナシ。
- 八、大錨二個(〇、四一七噸)船外ニアリ。
- 九、端艇壹隻(〇、三〇噸)所定ノ位置ニアリ。
- 十、炊事道具及食器類ハ完備ノ上炊事室ニアリ。
- 十一、活魚艙及船艙ハ全部空ナリ。
- 十二、甲板上移動重量トシテ徑三吋十六分ノ七長十六呎三吋鋼丸棒六本(合量一、三七四噸)ヲ搭載ス。
- 十四、船内ニアリタル人員左ノ如シ。

甲板上、艙口上	七人	〇、四一五噸
前部活魚艙内	一人	〇、〇四五噸
- 三、移動重量及傾斜角度測定裝置

移動重量トシテ鋼丸棒六本(各〇、二二九噸)ヲ本船ノ兩舷ニ各三本(合量〇、六八七噸)宛ヲ置キタルモノヲ以テ最初ノ状態トス重量移動ノ距離ハ十二、六呎トス。

傾斜角度測定用錘線ハ之ヲ全部活魚艙内前部隔壁ニ取付ケ重錘ハ水槽ニ浸シテ錘線ノ振動ヲ防止セリ錘線ノ支点ヨリ下部横置尺度迄ノ長ハ四呎トス。

四、吃水及排水量ノ噸數 傾斜試驗執行當時ノ本船ノ吃水ハ次ノ如ク。

船 首	三呎四吋二分ノ一	三呎三七五
船 尾	六呎十一吋二分ノ一	六、九五八
吃水ノ差	三呎七吋	三、五八三
平均吃水	五呎二吋	五、六一七

右平均吃及ニ於ケル本船ノ排水量(海水)ハ七一、〇噸ナリ而シテ平均吃水ニ於ケル浮揚面ノ重心ノ縦ノ位置ハ船ノ長サノ中央ヨリ前方〇、四六呎ニシテ吃水一吋ヲ増加スル噸數ハ一、七二噸ナリ。

依テ「トリム」ニ對スル排水量ノ訂正ヲナスニ左ノ如シ。

$$\text{減少スベキ噸數 } 1.72 \times \left(0.46 \times 12 \times \frac{3.583}{67} \right) \parallel 0.508 \text{噸}$$

故ニ「トリム」シタル状態ニ於ケル排水量(海水)ハ

$$71.0 - 0.508 \parallel 70.492 \text{噸}$$

比重ニ對スル訂正ヲナスニ次ノ如シ

$$70.492 \text{噸} \times \frac{1.015}{1.026} \parallel 69.736 \text{噸}$$

五、錘線下端移動ノ讀取

移動重量ノ位置	讀取錘線長 4.0'	訂 正
↑—— 12.6 —— ↓	左	
1 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	右	
	9 / 16	

2	○ ○ ○ ○	$9/16$	$27/8$	3.4375
3	○ ○ ○ ○	$9/16$		3.4375
4	○ ○ ○ ○	$37/8$		3.3125
5	○ ○ ○ ○	$17/32$		3.3437
6	○ ○ ○ ○	$17/32$	$27/8$	3.4063
7	○ ○ ○ ○	$17/32$		3.4063
8	○ ○ ○ ○	$37/8$		3.3437
9	○ ○ ○ ○	$9/16$		3.3125

Incen

3.375

六、GM、及KG、ノ高 以上ノ傾斜試験ノ結果ニヨリ傾斜試験當時ノGM、及KG、ヲ算出スルニ左ノ如シ。

重量移動ニ依ル「モーメント」ノ變化

$$0.687 \times 12.6 = 8.656 \text{ 噸}$$

依テ各傾斜試験ニ對スルGMノ高ハ次ノ如シ。

試験船照洋丸ノ建造

$$\frac{8.656 \times 48}{69.786 \times 8.375} = 1.77 \text{ 呎}$$

即チGM'ノ高キ平均 一、七七呎

而シテ傾斜試験當時ノKMノ高 七、一八呎

故ニKGノ高 五、四一呎

七、重心ノ位置ノ訂正 次ニ前掲重量物ノ重心ニ對スル訂正ヲナシ本船ノ空艙状態ニ於ケル重心ノ位置及GMヲ算出スルコト左ノ如シ。

項	目	重	量	KG	Moment
	本船ノ排水量	69.786		5.41	375.387
(4)	重油ヲ去レバ	— 0.167		8.80	— 1.47
(5)	輕油ヲ去レバ	— 0.050		8.30	— 0.165
(8)	大鎗二個ヲ搭載セバ	+ 0.417		7.00	+ 2.919
(12)	移動重量ヲ去レバ	— 1.374		7.95	— 10.923
(13)	甲板上人員ヲ去レバ	— 0.415		11.40	— 4.781
(14)	活海艙内ノ人ヲ去レバ	— 0.050		2.10	— 0.105
		<u>68.092</u>			<u>360.712</u>
					KG = 53

右ノ状態ニ於ケル排水量噸數ハ六八、〇九二噸ニシテ其ノ平均吃水ハ五呎二分ノ一吋ナリ。

右噸數ニ於ケル KMハ 七、二二呎

KGハ 五、三〇呎

G M ハ 一、九二呎

照洋丸滿載吃水狀態ニ於ケル傾斜試驗成績

大正十一年十二月十五日正午ヨリ午後一時迄ノ間ニ於テ三重縣鳥羽町鳥羽造船所内船渠ニ於テ鹿兒島縣漁業指導船照洋丸ノ滿載吃水狀態ノ傾斜試驗ヲ行フ。

當時ノ天候 曇天

風位 西

風力 殆ンド無風

海水ノ比重 一、〇一五

水流ノ狀態 殆ンド無シ

一、本船ノ重要項目繫船方法ハ空荷狀態ノ時ト同ジ。

二、試驗當時ニ於ケル本船ノ狀態 傾斜試驗執行ノ際ニ於ケル本船ノ狀態左ノ如シ。

一、船體機關共全部完成ス。

二、艤裝品屬具等ハ特ニ明記セザルモノハ總テ完成ノ上適當ノ位置ニアルモノトス。

三、滲水ハ全部排除セリ。

四、士官室上部清水槽ニ(〇、七八噸)清水ヲ充滿ス。

五、操舵室下清水槽ニ(一、一六噸)清水ヲ充滿ス。

六、機關室内左舷重油槽ニ(二〇、七石)充滿セリ。

七、同上右舷重油槽ニ海水ヲ充滿セリ。

八、重油小出シ「タンク」(一石入)内ニ三斗アリ。

九、輕油タンク(三斗入)内ニ一斗三升アリ。

十、燈油タンク(三斗入)空ナリ。

十一、輕油罐五個(豫備品)ナシ。

十二、錨三挺船内ニアリ。

十三、活漁艙ノ水ハ充滿セリ。

十四、人(五十人)及荷物(〇、三七噸)ナシ。

十五、船艙内ニアルベキ米十俵(〇、六三噸)船外ニアリ。

十六、船艙内ニアルベキ薪炭、味噌醬油(〇、一一噸)ナシ。

十七、漁具(〇、〇三噸)ナシ。

十八、氷室(四、二六噸)ニ銑鉄(三、七噸)ヲ入レタリ。

十九、汽艇ハ船上ニアリ。

二十、甲板上移動重量トシテ鋼丸棒六本(合量一、三七四噸)ヲ搭載ス。

二十一、船内ニアリタル人員左ノ如シ。

甲板艙口上 五人 〇、三〇三噸

操舵室内 二人 〇、一〇三噸

機關室内 三人 〇、一六一噸

三、移動重量及傾斜角度測定装置 移動重量トシテ三吋十六分ノ七、長ヲ十六呎三吋銅丸棒六本(各〇、二三九噸)

ヲ使用ス。

重量移動ノ距離ハ十二、七呎トス。

傾斜角度測定用錘線ハ之レヲ操舵室ニ取付ク重錘ハ水槽ニ浸シテ錘線ノ振動ヲ防止セリ。

錘線ノ支點ヨリ下部横置尺度迄ノ長ハ四呎トス。

四、吃水及排水量噸數

船首 四呎九吋八分ノ一 (四、七六〇呎)

船尾 七呎九吋八分ノ七 (七、八二三呎)

吃水ノ差 三呎〇吋四分ノ三 (三、〇六三呎)

平均吃水 六呎三吋二分ノ一 (六、二九二呎)

右平均吃水ニ於ケル本船ノ排水量(海水)ハ九五、一〇噸ナリ而シテ平均吃水ニ於ケル浮揚面ノ縦ノ位置ハ船ノ長サノ中央ヨリ後方〇、二呎ノ處ニシテ吃水一時増加スルニ要スル噸數ハ一、八三五噸ナリ。

依テ「トリム」ニ對スル排水量ノ訂正ヲ爲スニ左ノ如シ。

増加スベキ噸數

$$1,835 \times 20 \times 12 \times \frac{3.068}{67} = 0,201 \text{噸}$$

故ニ「トリム」シタル状態ニ於ケル排水量(海水)

$$95.1 \text{噸} + 0.201 \text{噸} = 95.301 \text{噸}$$

比重ニ對スル訂正ヲ爲スニ次ノ如シ。

$$95,301 \text{噸} \times \frac{1.015}{1.026} = 94,279 \text{噸}$$

五、錘線下端移動ノ讀取

錘線ノ長サ四呎〇吋

移動重量ノ位置		讀 取		差	鋼棒二本ニ換算	
		左	右			
1		11/16"				
2		4/8"		7/8"	10/16"	1.625
3		5/32"		21/32"	21/32"	1.656
4		1/2"		21/32"	21/32"	1.656
5		11/16"		13/16"	10/16"	1.625
6			5/32"	27/32"	11/16"	1.687
7			6/8"	19/32"	17/32"	1.594
8			5/32"	19/32"	17/32"	1.594
9			11/16"	27/32"	11/16"	1.687

平均 1.641

六、GM及KGノ高 以上ノ傾斜試験ノ結果ニヨリ傾斜試験當時ノGM及KGヲ算出スルニ左ノ如シ。

重量移動ニ依ル「モーメント」ノ變化

$$0.458 \times 12.7 = 5.82 \text{ 呎噸}$$

依テ各傾斜試験平均ニ對スルGMノ高サハ次ノ如シ。

$$\frac{5.82 \times 48}{94.278 \times 1.641} = 1.81 \text{ 呎}$$

即チGMノ高平均

一、八一呎

而シテ傾斜試験當時ノKGノ高

七、〇一呎

故ニKGノ高

五、二〇呎

七、重心ノ位置ノ訂正 次ニ前掲重量物ノ重心ニ對スル訂正ヲ爲シ本船ノ滿載状態ニ於ケル重心ノ位置及GMヲ算出スルコト次ノ如シ。

項 目	重 量	KG	Moment
本船ノ排水量	+ 94.279	5.20	490.251
(7) 重油艙ノ海水ヲ去レバ 重油ヲ加フレバ	- 3.84 + 3.45	4.28	- 16.435 16.766
(8) 小出シ「タンク」ノ重油ヲ加フレバ	+ 0.117	9.30	1.088
(9) 小出シ「タンク」ノ輕油ヲ加フレバ	+ 0.028	3.30	0.092
(10) 燈油ヲ加フレバ	+ 0.05	3.30	0.165
(11) 燈油ノ豫備ヲ加フレバ	+ 0.085	3.30	0.274

(14)	人及荷物ヲ加フレベル	+	3.320	5.50	18.260
(15)	(16) (17)ヲ加フレベル	+	0.761	3.50	2.664
(18)	氷室内ノ鉄鉄ヲ去レベル	-	3.70	3.50	12.950
合	氷ヲ滿載スレベル	+	4.14	4.20	17.388
(20)	甲板上下ノ移動重量ヲ去レベル	-	1.374	7.95	10.923
(21)	甲板上下ノ人ヲ去レベル	-	0.303	11.40	8.452
	操舵室ノ人ヲ去レベル	-	0.104	13.25	1.378
	機関室ノ人ヲ去レベル	-	0.161	5.30	0.853
			<hr/>		<hr/>
			96.746		500.957
					<hr/>
					5.18

右ノ状態ニ於ケル排水量噸數ハ九六、七四六噸ニシテ其ノ平均吃水ハ六呎四八分ノ三ナリ。

右噸數ニ於ケル KMハ 七、〇一呎

KGハ 五、一八呎

故ニ GMハ 一、八三呎ナリ。

機關連續運轉試驗

据付機關ハ新瀉鐵工所蒲田工場内ニテ陸上運轉試驗ヲ經タルモノナルガ三重縣鳥羽港ニテ船体据付後大正十一年十二月十三日機關連續運轉航走試驗ヲ行ヘリ當時ノ吃水船首三呎二吋船尾七呎三吋ニシテ最大速力九浬ヲ得タリ詳細記錄左ノ如シ。(主任田島農商務技師擔當)

大正十一年十二月十三日 天候晴風波稍強

時刻	毎分 回轉數	速力	風向	噴油 氣壓	低氣 底壓	潤滑 油壓	霧氣色	燃料油 タンク讀	冷却水 入口	冷却水 出口	機内 温度	備 要
前8.55	始動			所	所	所		斗	度	度	度	始動前ノ潤滑油温度56度
9-10	356			1000	100	11	少有	4.45	54	76	56	
9-10	367			1080	60	15	無		54	90		
9-20	365	8 1/2	0 ←	1000	55	10	ク		58	96	50	潤滑油温73度
9-30	354	8 1/2	0 ↙	985	56	10	ク		60	97	53	
9-40	352			960	53	10	ク	3.80	60	93	54	
9-50	352			960	53	10	ク		60	98	54	九時五十六分ヨリ十時十六分迄空氣壓 推機ノメネ折レタルヲ入替ノタメ運轉 停止
10-0												
10-10												
10-20	343			920	62	10	ク	3.40	60	97	55	回轉ノ減シタルハ调速ハンドルノ調整 ニヨル
10-30	344		0 ↘	940	62	10	ク		60	97	55	
10-40	345			940	55	10	ク	3.20	60	97	55	十時四十七分ヨリ五十八分迄空氣壓推 機内ニ殘レルメネ折レテ取去ルタメ停 止
10-50												
11-0	346			920	55	9.5	ク	3.19	60	102	55	
11-10	344			980	57	9.5	ク		60	99	55	
11-20	348		→ 0	980	56	9.0	ク		60	99	55	
11-30	346			980	57	9.0	ク		60	99	55	
11-40	348	7 1/2		980	58	9.0	ク		60	99	55	
11-50	349			980	57	9.0	ク		60	98	56	

12-0	348			980	58	9.0	ク		60	98	56
12-10	349	7 3/4	→ 0	980	57	10	ク		60	98	56
12-20	348			980	57	10	ク		60	100	58
12-30	348			980	57	10	ク		60	100	58
12-40	380	9	0 ↑	1100	62	10	少 有	1.66	60	105	58
12-50	380	8 1/2	→ 0	1100	62	10	無		60	106	58
1-0	382			1110	62	10	ク		60	105	58
1-10	382	8 1/2	0 ↓	1110	62	10	ク		60	105	58
1-20	382			1120	63	8.5	ク		60	106	58
1-30	382		0 ↑	1120	63	8.2	ク		60	111	58
1-40	385			1120	63	8.0	ク	0.38	60	111	58
1-50	385	8 1/4	→ 0	1120	63	8.0	ク	2.00	60	111	58
2-0	384			1120	63	8.0	ク	6.80	60	108	58
2-0	250	低速テスト									

潤滑油温93度

二時十一分クラツチナ切り後進ナ行ロ
機関停止
停止后ノ潤滑油温105度

調速ハンデルの調整はヨリ回轉ノ降化アレントモ該機油壓ノ3時50分ニテ3.59斗回轉數380ニテ運轉スルモ噴油氣壓力ノ調整ヲ行フトキ全ク排氣ニ色ナシ。

造船工事契約

契約事項

一、水産試験場所屬船 壹隻船殼建造及機装工事

鐵船長六十七呎、幅十五呎、深七呎三吋、四拾噸乃至四拾五噸

一、請負金額 金二萬四千二百十三圓

一、契約保証金 金二千圓

契約條件

一、造船工事ハ別冊仕様事及圖面ノ通トス。

工事着手期日 大正十一年七月二十日

工事竣功期日 大正十一年十二月末日

納付場所 三重縣志摩郡鳥羽町鳥羽造船工場

一、造船工事請負人ハ左ノ各項ヲ遵守スルモノトス。

一、造船工事ハ漁船検査規定ニ依リ執行スルモノトス。

二、造船工事中ニ於テ水産試験場長ノ命シタル監督者ノ指揮監督及遠洋漁業獎勵法ニ依ル検査ヲ拒ムコトヲ得ス。

三、監督又ハ検査ノ際材料ノ粗悪又ハ工事ノ粗漏若クハ不完全ノ點アリト認め取換又ハ改造等ヲ命シタル時ハ之ヲ拒

ムコトヲ得サルハ勿論之レガタメ生シタル損害又ハ工事竣功ノ延期ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス。

四、遠洋漁業獎勵法ニ依リ検査上必要ナル工程ニ達シタル時ハ其旨指定セラレタル検査官ニ報告シ其ノ検査ヲ受クル

モノトス。

五、工事竣功シタルトキハ水産試験場長ニ届出テ検査ヲ受クルモノトス。

六、天災事變其他正當ノ事由ニ依ルノ外契約期間ノ延期ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス。

七、請負人ノ責ニ任スベキ原因ニ依リ納付ノ日ヨリ一ケ年以内ニ於テ破損又ハ沈没等ノ事故ヲ生シタル時ハ無償ヲ以

テ修繕又ハ建造ヲ爲スモノトス若シ請負人ニ於テ之カ義務ヲ履行セサル時ハ水産試験場長ニ於テ之ヲ施行シ其費用

ヲ辨償セシムルモノトス。

八、水産試験場長ハ必要ノ場合ニ於テ構造ノ變更又ハ増減ヲ命スルコトアルヘシ但シ此場合ニ於テ請負金ノ増減ハ契約者双方協議ノ上之ヲ定ムルモノトス。

九、契約期間ノ延期ヲ求メスシテ契約期間内ニ工事ヲ竣工セサル時ハ遅延日數一日ニ付請負金額ノ千分ノ一ノ違約金ヲ徴收ス此場合ノ違約金ハ請負金額中ヨリ之ヲ扣除スルモノトス但シ天災事變其他避クヘカラサル事變ニ歸因スルト認メタル時ハ之ヲ免除スルコトアルヘシ。

十、契約保証金ハ工事完成後公試運轉成績ニ故障ナキコトヲ認メタル後ニ還付スルモノトス。

十一、請負金ハ左ノ時期ニ支拂フモノトス。

- (一) 請負保証金ヲ還付シタル時 金
- (二) 大正十二年四月 金

十二、左ニ掲クル場合ハ水産試験場長ニ於テ契約ヲ解除スルモ請負人ハ何等ノ異議ノ申立ハ勿論契約解除ニヨリ生シタル損害ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス。

- (一) 契約期間内ニ工事竣工ノ見込ナキ時
- (二) 正當ノ事由ナクシテ水産試験場長ノ命シタル監督者ノ指揮監督ニ從ハス又ハ規程ニ依ル検査ヲ拒ミタル時
- (三) 契約ノ全部又ハ一部不履行ノ時
- (四) 其他契約事項ニ違反シタル時

右各項契約セシ事ヲ証スルタメ本書ニ通ヲ作製シ各自一通ヲ領置ス。

大正十一年七月二十日

機關製作工事契約

契約事項

一、ディーゼル機關七十五馬力 一臺製作

一、始動用五馬力發動機 一臺製作

一、其他附屬品一式

右据付工事及運搬

一、請負金額二萬四千七百圓

一、請負保証金千圓

契約條件

一、機關製作工事ハ別冊仕様書及圖面ノ通トス。

工事着手期日 大正十一年

納付期日 大正十一年十一月三十日納付完了

納付場所 三重縣鳥羽町鳥羽造船工場

納付ノ船舶 同工場ニ於テ建造中ノ鹿兒島縣水産試驗場試驗船

注文者 鹿兒島縣水産試驗場長

三重縣志摩郡鳥羽町

株式會社神戸製鋼所鳥羽造船工場

請負者 取締役 辻 湊

一、工事請負人ハ左ノ各項ヲ遵守スルモノトス。

(以下ハ造船工事契約記載ト大同小異ニ付略記)

右

大正十一年七月十四日

注文者

鹿兒島縣水產試驗場長

東京市麴町區有樂町一丁目三番地

株式會社新瀉鐵工所

請負者

專務取締役 笹村吉郎

無線電信工事契約

契約事項

一、漁船用無線電信機械 一臺設備並取付

一、請負金 四千圓

一、契約保證金 四百圓

契約條件

一、設備工事ハ別冊仕様書圖面ノ通トス。

工事着手期日 大正十一年十月

工事竣工期日 大正十一年十二月二十日

約付ノ場所 三重縣志摩郡鳥羽造船工場

設備スヘキ船舶 同工場ニテ建造中ノ鹿兒島縣水産試驗場試驗船

一、工事請負人ハ左ノ各項ヲ遵守スルモノトス。

(以下ハ造船工事契約記載ト大同小異ニ付略記)

右

大正十一年十月十二日

注文者

鹿兒島縣水産試驗場長

東京豊多摩郡澁谷町大字下澁谷一八六番地

株式會社安中電機製作所

取締役社長青山郎代理

請負者

松原靜惠

照洋丸建造仕様書

第一條 一般計劃

本船ハ「ケツチ」型帆船ニシテ補助機關トシテ純七十五馬力重油發動機ヲ有シ主トシテ鮪鱈其他各種遠洋漁業並ニ海洋觀測等ニ從事スルモノトス。

船体ハ漁船検査規程ニ適合シ充分堅牢ニ構造シ設備ヲ完全ニシ操縦ニ便ナルヲ要ス本船ハ豫メ仕様書及構造ニ關スル必要ナル圖面ヲ提出シ注文者ノ承認ヲ受ケタル後建造ニ着手スヘシ船体ハ船舶検査規程ニ依ル製造中特別検査ヲ受ケ第一級漁船ニ合格スルヲ要ス本仕様書及圖面ニ記載ナキ事項ト雖モ此種漁船ノ最優良ナルモノニ準シテ之ヲ完備スヘシ。

材料ハ総テ良質ノモノヲ選ヒ漁船検査規程ニ合格シ工事ハ丁寧親切ヲ旨トスヘシ。

第二條 重要寸法

長(垂線間)

六十七呎

幅(中央ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面迄)

十五呎

深(船体ノ中央船側ニ於テ龍骨上面ヨリ甲板梁上迄)

七呎三吋

第一數

一二二、二五

第二數

一四九〇、七五

長ト幅トノ比

四、四七

長ト深トノ比

九、二四

幅ト深トノ比

二、〇七

計劃総噸數

四十噸乃至四十五噸

第三條 船首材、龍骨、船尾材

船首材及龍骨ハ鍊鋼ニテ製シ船尾材ハ鑄鋼又ハ鍊鋼トス。

第四條 舵

舵ハ鋼製單板式ニシテ舵ノ面積ハ充分大ナラシメ回轉圓ヲ減スル様特ニ留意スヘシ操舵機ハ手用ニシテ齒車裝置トナシ操舵室内ニ据付ケ鐵鎖鐵鍔伸縮螺旋ニ由リ舵柄ニ連結シ「リードブロック」等ヲ完備スヘシ。

第五條 肋骨

肋骨ハ機關室内ニテハ心距二十一吋其他ノ場所ニテハ二十四吋トシ正肋材幅肋材肋板ヲ以テ構成ス幅肋材ハ側内龍

骨ヨリ側内龍骨ニ達シ機關室内ニテハ之ヲ二重トスヘシ。

第六條 甲板梁

甲板梁ハ肋骨一本置キニ取付ケ鋼製肘板ヲ以テ肋骨ニ固着スヘシ但シ油槽部分ニ於テハ肋骨毎ニ取付ケ上部ニ副甲板ヲ張り詰ムヘシ。

第七條 艙口其他出入口

各魚艙ニハ四呎×五呎甲板上ノ高十二吋ノ鋼製艙口ヲ設ケ二重蓋ヲ備ヘ覆布締付金具等ヲ完備スヘシ。

氷艙ニハ圖示ノ如ク各高九吋ノ鋼製艙口ヲ設ケ木製蓋覆布等ヲ完備スヘシ船首室ニハ鋼製出入口ヲ設ケ船尾室ニハ上甲板上甲板室ノ一部ヨリ出入スルモノトス。

第八條 機關室

機關室ハ圖示ノ如ク船尾室ノ前部ニ設ケ純七十五馬力重油發動機据付ニ要スル基礎工事一切ヲ完備スヘシ機關室ノ上部ハ高三呎ノ鋼製圍壁ヲ設ケ天窓通風管煙突等ヲ取付ケ各側ニハ出入口昇降梯子等ヲ完備スヘシ。

第九條 船室

船尾甲板下ヲ上級船員室トシ上部ニ圍壁ヲ設ケ美麗ニ裝飾シ床上ニハ「リノリウム」ヲ張り詰ムヘシ圍壁上ニハ天窓通風管ヲ取付ケ通風器ハ密閉シ得ル裝置トナスヘシ。

床板ハ揚板裝置トシ床下車軸ノ兩側ニ壓艙物ヲ積ミ込ミ得ル様適當ニ構造スヘシ室内ニハ寢台鏡戸棚物入帽子掛卓子回轉椅子ヲ備フヘシ。

船首甲板下ヲ下級船員室トシ上部ニ天窓及通風管ヲ取付ケ通風管ノ構造ハ船尾室ノモノニ準スヘシ。

室内ニハ寢台物入棚等ヲ設置スヘシ。

第十條 魚艙、氷艙、石油艙、漁具庫等

機關室兩側ノ一部ヲ重油槽トシ各艙ニハ注入口及排氣管ヲ完備スヘシ魚艙ハ船ノ中央部ニ位シ漁獲物貯藏及活魚艙兩様ニ適スル様構造スヘシ底部ハ「セメント」ヲ塗リ適當ノ黃銅製換水管木栓及金網ヲ附シ適當ナル位置ニ吸上唧筒ヲ裝置スヘシ氷艙雜具庫漁具庫ハ魚艙ノ兩側ニ配置シ甲板上ニ艙口ヲ設クヘシ魚艙氷艙ノ圍艙ハ適當ニ防熱スヘシ。

第十一條 錨鎖庫及物入庫

船首前端隔壁前ヲ錨鎖庫及物入トシ夫々必要ナル設備ヲ爲スヘシ。

第十二條 上甲板室

炊事室ハ船尾室上ニ設ケ床ニハ「セメント」ヲ塗リ竈調理臺薪入棚等ヲ完備シ流シハ取外シ得ヘキモノヲ舷側ニ設クヘシ清水艙ハ船尾室圍壁上ニ据付ク、操舵室ハ機關室圍壁上前部ニ設ケ前面ニ角形硝子窓兩側ニ眞鍮枠圓窓ヲ附セル出入扉ヲ設ケ手用操舵具機關室傳令機及傳聲管等ヲ設備シ海圖棚信號旗棚等ヲ設クヘシ。

無線電信室ハ操舵室ニ接續シ後面ニ設ケ前面操舵室ノ側ニ出入扉左右及後側ニ眞鍮枠圓窓ヲ設ケ室内ノ無線取付臺及物入等ヲ設クヘシ。

第十三條 操錨具及繫船具等

船首ニハ手用揚錨機「アンカータビット」錨臺錨鎖庫等操錨ニ必要ナル裝置ヲ完備スヘシ船首尾適當ノ位置ニ「ムアリンクパイプ」「ボラツトヘット」等ノ繫船具及此種漁船ニ必要ナル甲板屬具一切ヲ完備スヘシ。

第十四條 排水裝置

甲板ニハ適當ノ箇所ニ「スカツパー」及「フリーイングポート」數箇ヲ設ケ排水ヲ完全ナラシム。

甲板上適當ノ場所ニ手用排水唧筒二箇ヲ取付クヘシ。

BREADTH			DECK		HEIGHT FROM BASE LINE			DECK		STATION NO.
E			UP. DE	RAIL	BUTTOCK LINE		UPPER DE AT SIDE	TOP OF RAIL		
0	5'-0"	6'-0"			2'-0"	4'-0"	6'-0"			
	1"	1"	6'-3/8"	6'-2 1/8"	8'-0 1/4"	8'-7 1/2"	9'-8"	9'-9"	11'-9"	A.P.
5"	10 7/8"	1'-10 1/2"	6'-4 5/8"	6'-6 3/8"	6'-1"	7'-3 1/2"	8'-7 1/4"	9'-3 1/4"	11'-3 1/4"	1/2
2'	3'-1"	4'-2 1/4"	6'-8 3/8"	6'-9 7/8"	3'-9 1/2"	5'-10 1/8"	7'-7"	8'-10"	10'-10"	1
10"	5'-8 3/4"	6'-5"	7'-1 1/2"	7'-2 5/8"	1'-5 1/8"	3'-2"	5'-4 1/2"	8'-1 3/4"	10'-1 1/8"	2
5 3/4"	6'-10 1/8"	7'-1 1/2"	7'-4 1/2"	7'-4 3/4"	8"	1'-6 1/2"	3'-3 5/8"	7'-7 3/4"	9'-8"	3
4"	7'-5 1/4"	7'-6"	7'-6"	7'-6"	5 1/2"	9 3/8"	1'-8 1/2"	7'-4 1/8"	9'-4 1/4"	4
6"	7'-6"	7'-6"	7'-6"	7'-6"	4"	8"	1'-0 1/2"	7'-3"	9'-3"	5
6"	7'-6"	7'-6"	7'-6"	7'-6"	4"	8"	1'-1 1/4"	7'-3 1/4"	9'-3 1/4"	6
7 7/8"	7'-2 1/8"	7'-3"	7'-3 1/2"	7'-4"	4 1/8"	9 3/8"	1'-9 1/4"	7'-4 1/8"	9'-4 1/8"	7
9"	6'-1 1/4"	6'-4"	6'-6 3/8"	6'-8 3/8"	6 5/8"	1'-7 1/8"	4'-7 1/2"	7'-8"	9'-8"	8
10 1/8"	3'-4 1/2"	3'-9 7/8"	4'-6 1/8"	5'-2 1/4"	2'-7 1/2"	6'-5"		8'-0 3/4"	10'-7/8"	9
	11 1/2"	1'-5 3/8"	2'-6 3/4"	3'-9"	7'-2"			8'-3 3/4"	10'-4"	9 1/2
			3 3/4"	1'-6 3/8"				8'-7"	10'-7/8"	F.R.

SHOYO MARU

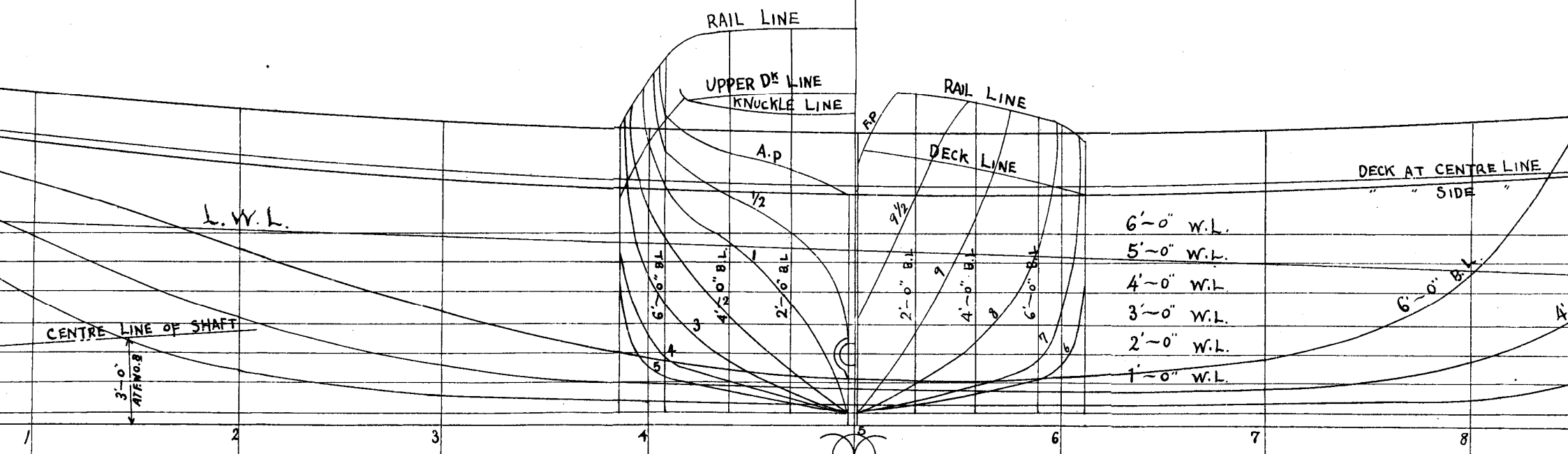
LINES

SCALE 1/4" = 1 FOOT

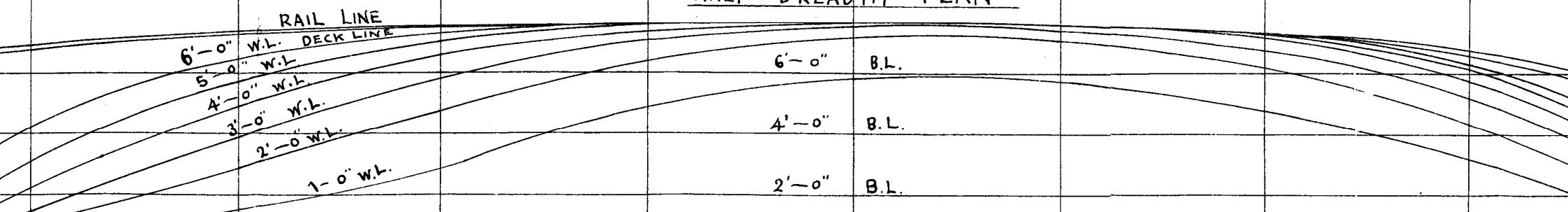
LENGTH P.P.
BREADTH MOULDED
DEPTH MOULDED
CAMBER OF BEAM
RISE OF FLOOR
BILGE CIRCLE
SHEER FORE (AT UP. DECK EXT)
" AFT
HIGHT OF TOP OF RAIL
STEM
KEEL
STERN FRAME RUDDER P
PROPELLER
SQUARE STATION APART
WATER LINE APART
BUTTOCK LINE "
FRAME SPACE 24" EXCEPT M

AFT BODY

FORE BODY



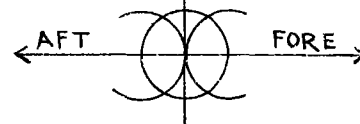
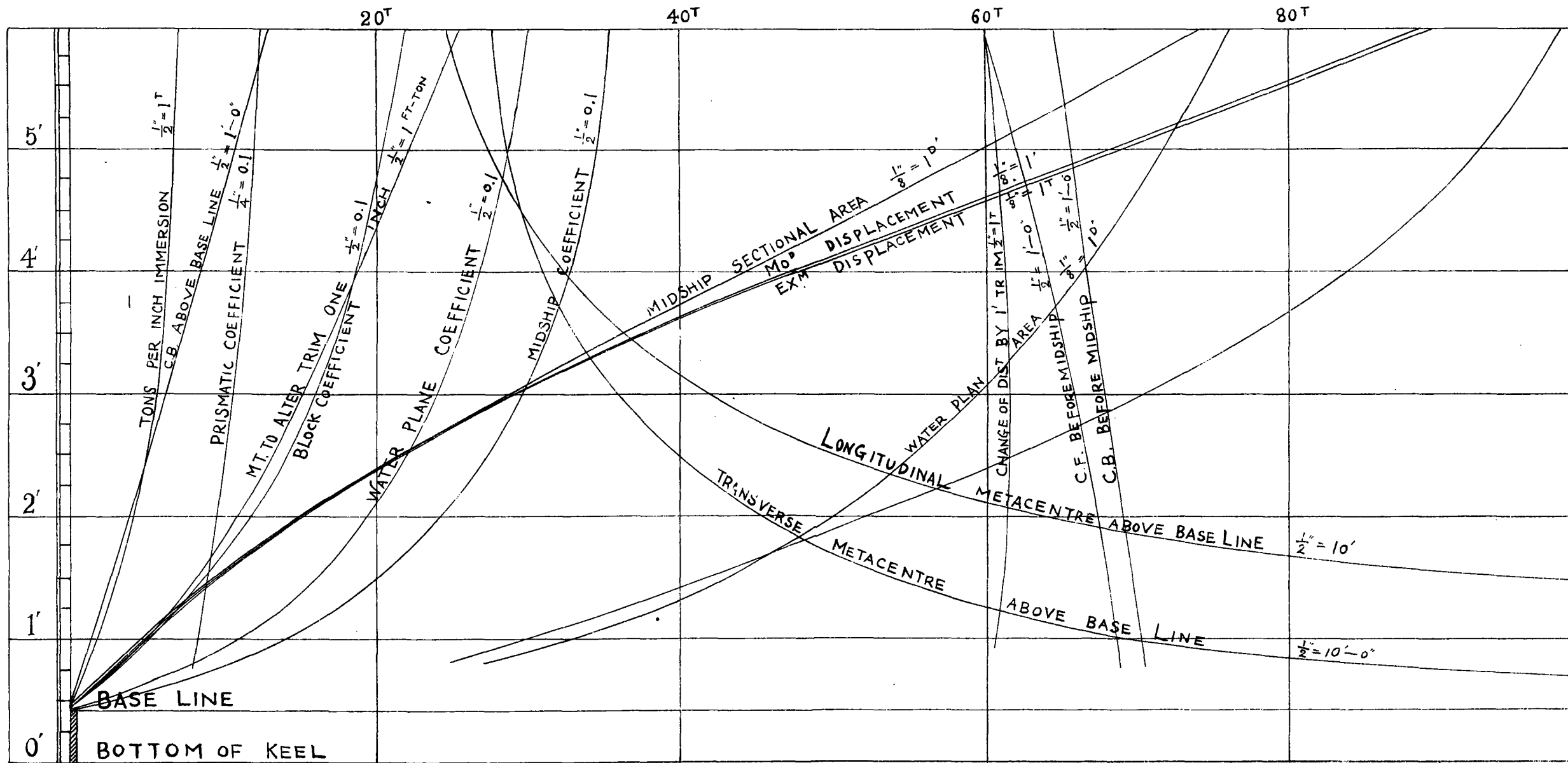
HALF BREADTH PLAN



SHOYO MARU

CURVES OF DISPLACEMENT & ETC.

67'-0" x 15'-0" x 7'-3"



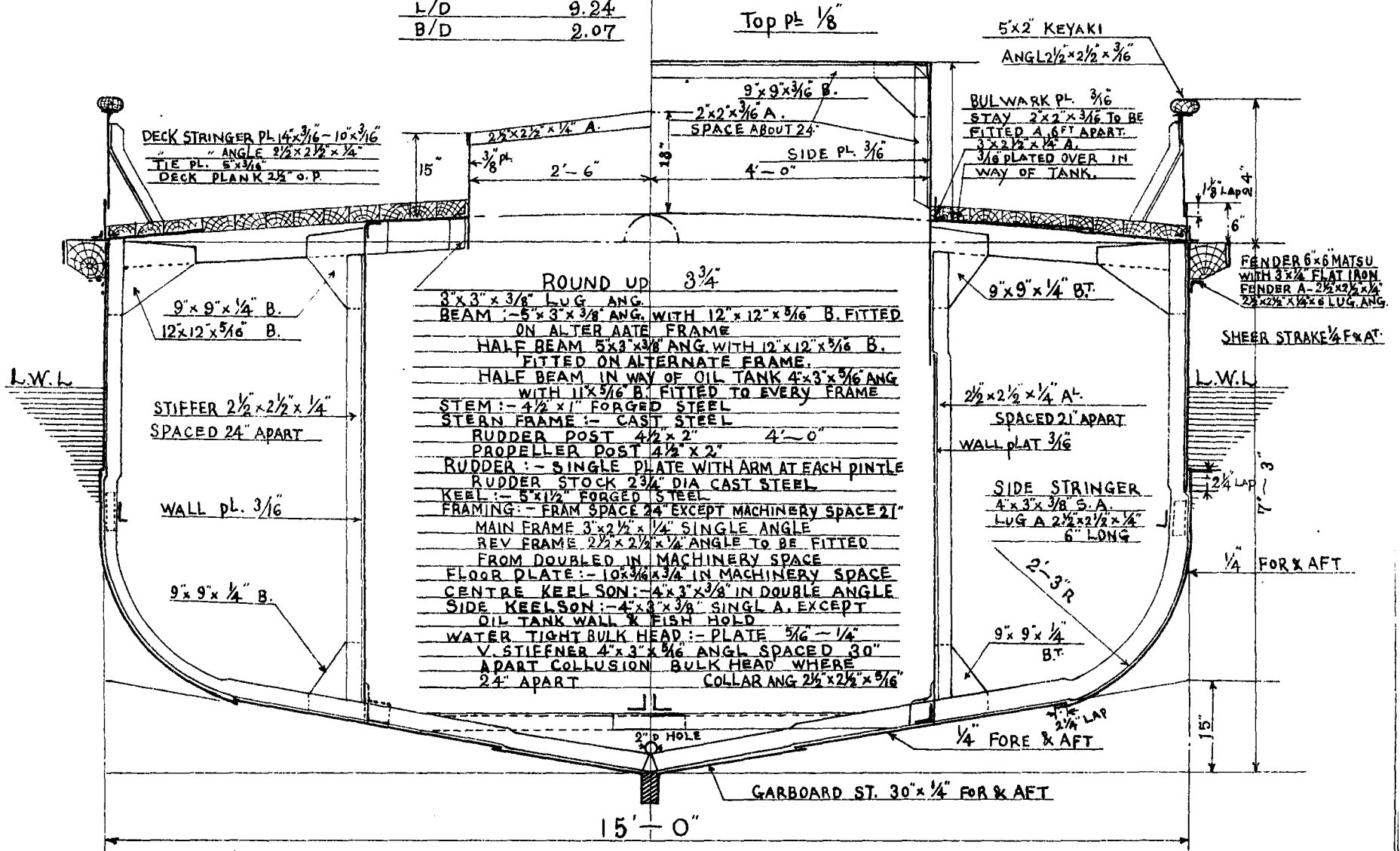
SHOYO MARU

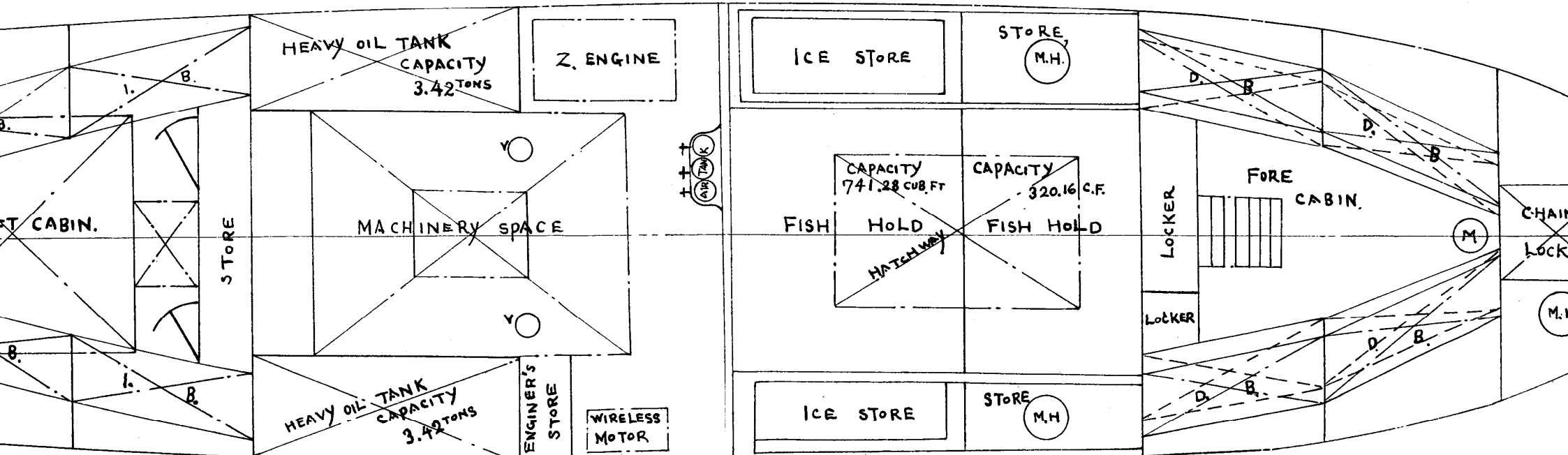
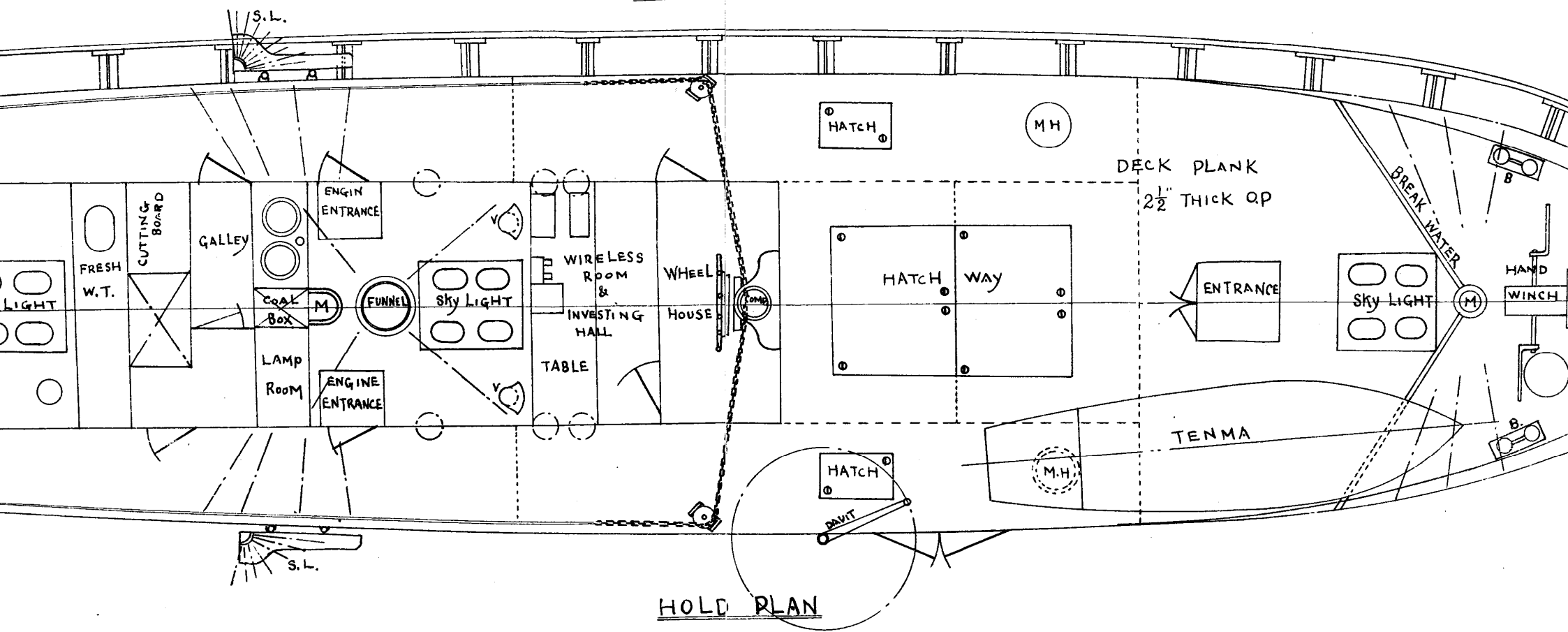
MIDSHIP SECTION

SCALE 1/2" = 1 FOOT.

PRINCIPAL DIM.	
LENGTH BETWEEN P.P.	67'-0"
BREAD M ^{LD}	15'-0"
DEPTH M ^{LD}	7'-3"
Proportion:-	
L/B	4.47
L/D	9.24
B/D	2.07

SCANTLING NO.	
DEPTH	7.25
BREAD	+15.00
1 ST NO.	22.25
LENGTH	x67.00
2 ND NO.	1490.75





第十五條 檣圓材索具及帆布

檣及圓材ハ檣材ヲ使用シ長及寸法ハ帆走圖ニ依ルヘシ靜索ハ「ガルバナイスチールワイヤ」ヲ使用シ動索ハ総テ「マ
ララロープ」ヲ使用スヘシ帆布ハ近江帆布四番及五番製ノモノヲ用フ以上材料ハ総テ上等品ヲ使用シ附屬具豫備品
一切ヲ完備スヘシ。

「プロック」ハ「シート」用外ハ総テ「パテントプロック」トシ「シート」及「ガイ」用「プロック」ハ「クリスキ」
トス大サハ動索ニ相當スルモノトス。

此外「ビレーインクビン」「クリート」「シートホース」「アイボルト」「リングボルト」「フェヤリダー」等索具運
用ニ必要ナルモノハ之ヲ完備スヘシ。

第十六條 壓艙物

注文者ノ命ニ依リ鉄屑ヲ適當ニ積込ムヘシ。

第十七條 塗板塗裝ヲ要スル木部ハ油塗トシ諸室内部ハ白色「ペイレト」ヲ塗ルヘシ鉄鋼部ハ錆止塗料ヲ施シタル後
外板水線下ハ「インターナシヨナル」貳回塗其他ノ部分ハ注文者ノ命スル色ノ仕立「ペイント」ヲ以テ塗裝スヘシ
船首尾ハ船名ヲ表示スヘシ。

第十八條 錨及錨鎖

錨及錨鎖ハ漁船検査規程ニ準據シ附屬品及豫備品一切ヲ完備スヘシ。

第十九條 船体屬具（略記）

參氣筒七十五馬力船舶用ディーゼル機關仕樣書

一、種類 四循環單働參氣筒豎型ディーゼル機關 壹臺

一、純馬力 七十五馬力也

一、平均回轉數 壹分間三百五拾回

一、燃料ノ種類及消費量 比重〇、八八乃至〇、九二五ヲ有スル重油(但シピツチ抜き)發動機油ヲ使用シ一時間ノ消費量純一馬力ニ付〇、五〇封度以內トス。

一、氣箱 内徑九時内壁ノ厚サ一吋ニシテ氣箱蓋ト一体ニ構造ス材料ハ特種鉄製ニシテ精密ニ内部ヲ仕上充分ニ再削ノ餘地ヲ存ス、外套ハ厚サ一吋軟鋼板ヲ以テ造リ腐蝕ニ對シテ豫防ノ方法ヲ施シタルモノトス。

一、行程 十二吋

一、吸鑊 緻密ナル鑄鉄製ニシテ外面ハ「グラインダー」ヲ以テ精密ニ仕上クルモノトス。

一、吸鑊發條 巾 $\frac{3}{8}$ 吋ニ厚 $\frac{5}{16}$ 吋、吸鑊一個ニ付六個氣密ヲ完全ニ保ツ様精密ニ工作ス。

一、吸鑊栓 材質軟鋼炭素燒ニシテ「グラインダー」ヲ以テ精密ニ仕上ケ徑 $\frac{3}{16}$ 吋磨擦面ノ長五吋。

一、接續鉗 材質軟鋼兩端中心間長サ $\frac{26}{16}$ 吋斷面長方形トシ其長サ豎三吋幅二吋。

一、給油唧筒 氣箱三個ニ付一個唧筒弁ノ直徑 $\frac{9}{16}$ 吋最大行程一吋、弁ノ種類圓錐形弁「サクシヨンバルブ」徑 $\frac{1}{2}$ 吋「デリベリバルブ」徑下部 $\frac{5}{8}$ 吋上部 $\frac{3}{16}$ 吋。

一、冷箱唧筒 偏心盤ニヨリテ曲拐軸ヨリ運動ヲ傳フ、數一個直徑 $\frac{3}{4}$ 吋行程 $\frac{5}{8}$ 吋。

一、冷水唧筒 數一個直徑 $\frac{1}{4}$ 吋行程 $\frac{5}{8}$ 吋。

一、曲拐軸 種類「ソリットタイプ」材質軟鋼曲拐問ノ角度一二〇度軸徑 $\frac{5}{16}$ 吋栓徑 $\frac{5}{16}$ 吋栓長サ $\frac{3}{8}$ 吋。

一、進力受 材質軟鋼徑 $\frac{1}{4}$ 吋進力環外徑 $\frac{7}{2}$ 吋有効數前進四個後進三個。

一、螺旋軸 材質軟鋼徑 $\frac{5}{8}$ 吋黃銅卷ノ上徑 $\frac{4}{5}$ 吋。

一、中間軸 材質軟鋼徑三 $\frac{7}{8}$ 吋

一、曲拐兩側ニ於ケル軸受兩側間ノ距離一 $\frac{1}{2}$ 吋

一、曲拐軸受 長サ兩端各五 $\frac{7}{8}$ 吋、三 $\frac{1}{2}$ 吋、中間五 $\frac{3}{8}$ 吋

一、螺旋 種類「ソリツドタイプ」材質砲金徑四五吋螺旋三四吋葉數三枚回轉方向右廻リ。

一、點火ノ方法 「ディーセル」式ニシテ氣筒内ノ空氣ヲ壓縮シ燃料ノ燃燒溫度ニ達セシメ上部死点ニ於テ燃料ヲ別ノ

高壓空氣ニヨリ噴射シ完全燃燒ヲ爲サシム。

一、反轉裝置 「レバーシングギヤト」ニ依ルモノトス。

一、緩急裝置 給油唧筒ノ行程ヲ加減スルコトニ依リ之ヲ行フモノトス。

一、附屬品

始動及噴油空氣溜

手働空氣壓搾機

機關室用小道具

ターニングレバー

スバナー

特種分解要具

一、豫備品

吸鏢發條

接續錐下ノ螺釘(母螺付キ)

試驗船照洋丸ノ建造

一式

一臺

一揃

一個

一揃

一揃

十二個

二本

螺釘及母螺

給油唧筒辨

發條

吸入辨及排出辨（全形）

同右用辨座

起働辨

「フューエルニードル」

「アトマイザーグループドワツシャヤ」

「アトマイサーワツシャヤ」

「フリュームプレート」

「フリュームプレートナツト」

各種硝子製品

LP「サククシヨシヨシ及デリベリバルブ」（エヤールコンプレツサー用）

HP「サクシヨシヨシ及デリベリバルブ」（ク）

LP「ビストンリンク」（ク）

HP「ビストンリンク」（ク）

空氣溜用弁端

「パツキング」各種

各種若干

一組

各種一臺分

五個

三個

一個

二個

二個

二個

三個

二個

二揃

二個

二個

一台分

二台分

大二個

小四個
一揃

	強壓注油用唧筒	二組
	冷水唧筒辨	一組
	冷水唧筒辨	二組
	空氣壓搾機接續錁下ノ螺釘(母螺付)	二本
LP	「サクシヨンバルブシート」(エヤーコンプレツサー用)	一個
LP	「デリベリバルブシート」(ク)	一個
HP	「サクシヨンバルブシート」(ク)	一個
HP	「デリベリバルブシート」(ク)	一個
HP	「デリベリパイプ」(ク)	一本
	「アフタークーラー内部パイプ」(ク)	一本
	接續錁上黃銅	一個
	同 下黃銅	一組
	空氣壓搾機接續錁上黃銅	一個
	同 下黃銅	一組
	主軸受螺釘(每螺付)	三個
	接續鍔螺釘及母螺	一組
	油管	若干
	寒暖計	二個

試驗船照洋丸ノ建造

追加附屬品

- 重油槽一石入 一個
- 輕油槽二斗入 一個
- 重油手働唧筒 一個
- 諸管裝量 一式

漁船用無線電信機仕様書

- 一、高周波電動發電機ノ出力ハ五分ノ三「キロボルトアンペヤ」トス。
- 一、電源トシテハ本船備付ノ直流發電機ヨリ高周波電動發電機ノ電力ヲ供給シ發電機ヲ運轉シテ「一〇〇」ボルト「五〇〇」「サイクル」ノ高周波電流ヲ發生セシメ更ニ之ヲ變壓器ニヨリ「二五〇〇」「ボルト」ニ遞昇セシムルモノトス。
- 一、本機ノ送信方式ハ「クエンチド、スバーク」式ニシテ送信電波長ハ「三〇〇」及「六〇〇」米ノ二種トシ受信裝置ハ真空管檢波器ヲ主裝置トシ之ニ礫石檢波器ヲモ添屬セシメタルモノニシテ減幅及不減幅電波ヲモ受信シ得ル様接續ヲ施シ尙特ニ船橋無線電信局發信ノ「四〇〇〇」米時報ヲモ受信シ得ル様設計シタルモノトス。
- 一、本機ハ主ニ噸數「二〇〇」噸内外ノ小形船舶ニ設備スルモノナルヲ以テ別ニ豫備裝置ヲ附セス。
- 一、本機ノ通達距離ハ晝間五十浬乃至三百浬ニシテ機械各部共遞信省所定檢査ニ合格スル様設計シタルモノトス。
- 一、船橋ノ高低ハ通達距離ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ本船ハ船橋ハ船舶ノ船体其他操作ニ支障ナキ限り可及的高ク繼キ足スヲ要ス。

最新型漁船用無線電信機械明細書

一、五分ノ三キロワット高周波電動發電機	一	台
一、同	一	台
高周波變壓器		
一、無線電信配電盤メーター抵抗器付	一	個
一、ナスラーコイルメーター、ギャツプ付	一	個
一、インダクタンスコイル	一	個
一、送信用コンデサー	一	個
一、送受轉換器	一	個
一、電鍵	一	個
一、インピーダンスコイル	一	個
一、防禦蓄電器	一	個
一、エポナイトスタント	一	個
一、無線電信受信器	一	台
一、真空管檢波器其他附屬品共	二	個
一、受話器豫備コード付	一	組
一、プザー附屬品共		
一、空中線材料		
アンテナ引込管、アンテナヤード、十八番七ケ撚錫鍍鋼銅線、二十番七ケ撚錫鍍鋼銅線、ステー碍子、アンテナ碍		